

- 東京電力のシミュレーションの元になった、津旨大輔氏（電力中央研究所 環境科学研究所 上席研究員）によるセシウム137の拡散シミュレーション。（2013年の汚染水漏れが続いていた場合を想定したもの。）
- 季節によって北に南に、沿岸部を舐めるように、流れていく。北は仙台湾・石巻湾に滞留し、牡鹿半島も北上。南は小名浜近辺に滞留し、銚子沖まで到達している。
- 濃度はともかく、親潮と黒潮がぶつかり合う「潮目の海」と呼ばれる福島の海では、沖合よりも、陸地に沿った南北への流れが強いことが想定される。

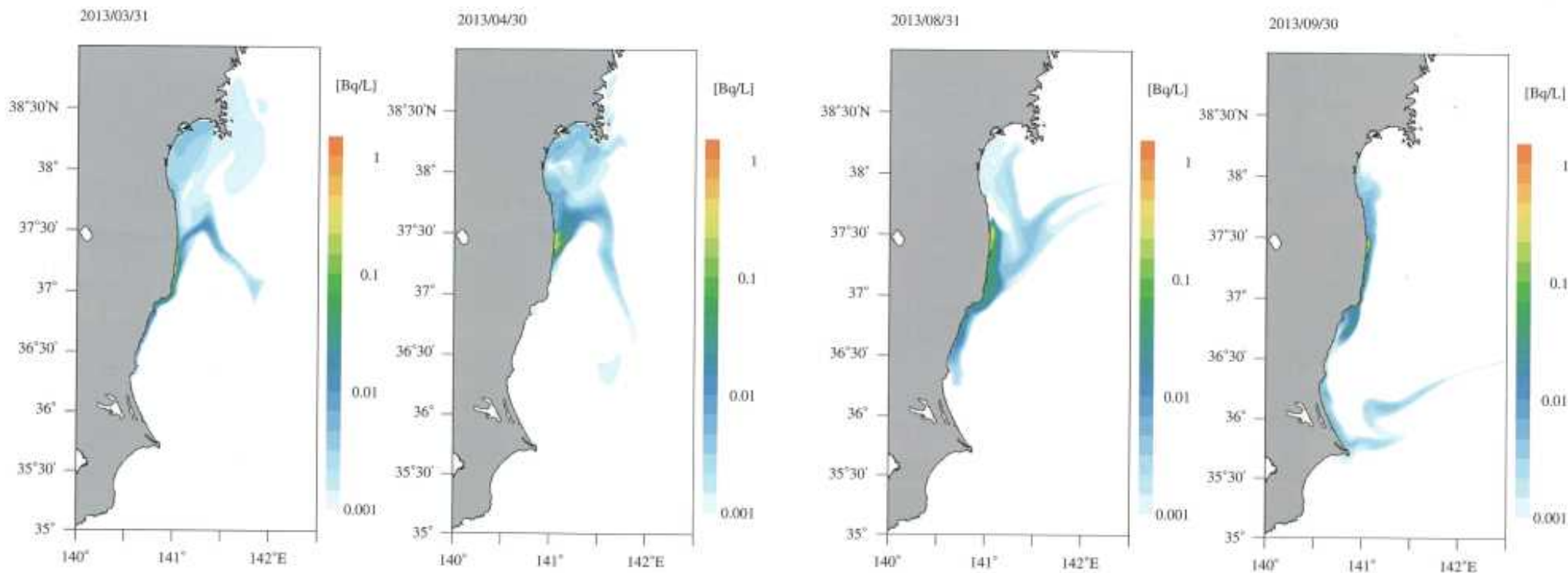


図5-14 2013年1月以降、 ^{137}Cs が 3×10^{10} Bq/dayで漏えいした場合の濃度分布。2013年3月31日、4月30日、8月31日、9月30日。

○採取検体

- ・海水

○測定核種

- ・放射性セシウム
- ・ストロンチウム90
- ・トリチウム



○採取地点

地点名	市町村	原発からの距離
相馬港	相馬市原釜大津	北約45km
萱浜,村上海岸	南相馬市原町区萱浜,村上	北約16km
請戸港	双葉郡浪江町請戸	北約6.5km
双葉海水浴場(マリンハウス双葉)	双葉郡双葉町	北約3.5km
熊川河口付近	双葉郡大熊町熊川町	南約3km
富岡港	双葉郡富岡町仏浜	南約9.5km
岩沢海水浴場(広野火力横)	双葉郡楡葉町	南約20km
小名浜港	いわき市小名浜	南約55km

○海水採取

- ・表層を採取する。
- ・水汲みバケツにより採取。
セシウム用=20L、ストロンチウム用=20L、トリチウム用=2L

○ラボに帰ってからは・・・

- ・海水はろ過(セシウム、ストロンチウム)・蒸留(トリチウム)後に、それぞれの測定用前処理。

沿岸海洋調査の概要【年2回 相馬港~小名浜港】



相馬港



村上海岸



マリンハウス双葉前



富岡港

沖合海洋調査の概要【福島第一原子力発電所沖】

○採取検体

- ・海水
- ・魚類
- ・プランクトン

○測定核種

- ・放射性セシウム
- ・ストロンチウム90
- ・トリチウム

○採取地点

- ・第一原発沖1.5km程度の地点4ヶ所（A地点、B地点、C地点、D地点）で採取。
- ・魚が釣れなかった場合は、船長の判断により、移動して釣る。



2021年11月の沖合海洋調査の海水・魚類の採取地点

○海水採取

- ・表層と下層の2層を採取する。
- ・表層は水汲みバケツにより採取し、下層はバンドーン式採水器により採取する。
セシウム用=20L、ストロンチウム用=20L、トリチウム用=2L
- ・採取地点の緯度経度については、船長に確認し、記録をとる。



○魚採取

- ・釣りにより魚の採取をする。
- ・釣った魚については鈴木譲氏による血液採取を船上で行う。
※10匹程度を目安として、魚の数が多い場合、類似したものについては、海に返す。
- ・採取地点の緯度経度については、船長に確認し、記録をとる。

○プランクトン採取

- ・船の大容量水汲みポンプから汲み上げた海水を、プランクトンネットに通過させて採取する。



○ラボに帰ってからは・・・

- ・海水はろ過（セシウム、ストロンチウム）・蒸留（トリチウム）後に、それぞれの測定用の前処理。
- ・釣った魚は、大きさや重さの記録、臓器などの解剖をし、身と骨・頭などに解体。乾燥の上、それぞれの測定用の前処理を行う。